

■第11回「しまねナイスパートナー」選定者一覧

※記載は受付順

氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
1	たむら まつよ 田村 松代	<p>○四絡(よつがね)コミュニティセンター環境部員としてボランティア活動に積極的に関与毎月2回、地域の美化清掃活動等を実施。 歩道のゴミ拾いや、廃食油リサイクルの石鹸づくり、アクリルたわしを作成し、施設へ寄贈。</p> <p>○四絡地区更生保護女性会会員として、介護施設や小学校の支援活動に積極的に参加介護施設での夏祭りの手伝い、慰問活動。町内で募金集め、小学校へ図書贈呈。</p> <p>《更正保護女性会とは》 地域社会の犯罪・非行の未然防止のための啓発活動を行うとともに、青少年の健全な育成を助け、犯罪をした人や非行のある少年の改善更生に協力することを目的とするボランティア団体</p>	<p>よつがね秋祭りでは夫婦そろって餅つき等に参加協力し、会場に訪れる地域住民に提供。 よつがね夏祭りでは、勇氏は実行委員として募金活動からイベント実施まで関与、松代氏は、会場内のごみ収集や地元の四絡音頭踊りにボランティアとして参加。</p> <p>勇氏が会議等で出かける際は、必ずといっていいほど、松代氏が運転する自家用車で送迎など、仲良し夫婦として非常にほほえましく映る。</p>	出雲市四絡コミュニティセンター長
	たむら いさむ 田村 勇	<p>○地域の環境を守る活動 大塚町農地・水・環境保全の会(会員30名程度)会長として地域の環境保全活動を推進。3月に排水路の泥上げ、4月に用水路の泥上げ、6～11月は河川土手等の草刈など、勇氏の指揮で実施。</p> <p>○大塚自衛消防隊の隊長、四絡災害時支援隊設立に貢献 四絡地区消防分団長を辞任後、大塚自衛消防隊の立ち上げに関与。また四絡災害時支援隊設立に参画し、本人も役員、隊員として活躍中。</p>	<p>夫婦それぞれが互いに活動を認め合い、支え合いながら地域づくりに貢献している。</p>	
2	なかにほやし きぬこ 中林 衣子	<p>○ふれあいサロン代表として高齢者対策に取り組む 季節に応じて七夕や新年会などのイベントを開催。 脳の活性化やバスで遠方に出かけるなど高齢者の方が飽きない工夫が好評。</p> <p>○民生委員の経験を活かし、青少年育成に関与 斐川町更生保護女性会、阿宮地区青少年育成協議会委員として犯罪防止のための啓発活動を実施。</p> <p>《青少年育成協議会とは》 次代を担う青少年が夢と希望を持って自立と自己実現を図るとともに社会への貢献を果たすよう、青少年の育成及び青少年を取り巻く環境の整備を進めていくことを目的とした組織</p>	<p>衣子氏は、阿宮コミュニティセンターの運営委員会委員として、文化祭等の地域活動に参画。 ふれあい交流部副部長としてビザづくりやそば打ち体験などの料理教室も開催。</p> <p>何時も夫婦仲良く、青少年育成にはご夫婦の活動に対して互いが適切な助言を行うなど、地域における社会福祉の増進に寄与されている。</p>	出雲市阿宮コミュニティセンター長
	なかにほやし のぶお 中林 信夫	<p>○阿宮地区自治協会会長等様々な役職を歴任 自治協会会長として平成25年に阿宮地区災害対策本部を立ち上げ、年数回防災訓練を実施。 阿宮地区の県道の拡幅、改修を地域の代表として国・県・市に要望。</p> <p>○地域を見守る活動 出雲市青少年育成協議会副会長として、登校時間帯にJR、一畑電車各駅等でのあいさつ運動。 年間を通じて地区内パトロール活動や、小学生を対象とした子ども教室に参加。</p>	<p>地域事業においても、夫婦そろって奉仕作業等のリーダーとして活動に参加するなど、お互いを尊重し協力しながら活動されている姿は多くの人々の見本となっている。</p>	

	氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
3	ふじい やねこ 藤井 八重子	益田市 波田町	○食育活動の実施 研修会、栽培検討会、集荷作業などで中心的に活動。 4年前から保育園との農産物の直接取引を行い、高齢者の生きがいづくりに貢献。	政美氏は、自ら手がけたUターン者を集めて「Uターン者の集い」を開催し、定住されている方々の意見交換する場を設けるなど、おもてなしを実践していることから、地域はもとより、訪れた都市住民の方からの信頼が厚い。 これまで自家消費だった野菜を、保育所への配達することにより、生産者にはプラスαの収入が得られ、生きがいにもなっている。八重子氏が栽培したものを政美氏が地域でまとめて配送するなど、役割分担しつつ夫婦で活動している。	真砂地区振興センター長
	ふじい まさみ 藤井 政美		○Uターン者への移住の働きかけ 平成9年より人口定住のための活動を実施。これまでUターン者4組、1ターン者5組、計33人移住。 移住請負人として活躍。 ○サロン活動(麵'Sクラブ)での世代間交流の推進 男性11人を集合させて、2月に1回程度、保育園児や小学校児童と昼食作りを実施。		
4	やまだ しおり 山田 しおり	美郷町 粕淵	○パッチワーク教室を主宰 平成18年から自宅でパッチワーク教室を開始。現在生徒18名。 平成21年10月に商店街の空き家などを利用して「町並みぶらりキルト展」を開催。 平成23年10月、平成26年4月にも開催。4月は町内外から850人来場。 展示会を開催することにより、商店街に人が集まり、活気をもたらした。	しおり氏の町並みぶらりキルト展の開催のきっかけは、夫婦で行った大分県の風景を見たとき。しおり氏が「こんな風に町並みを取り込んだ展示ができれば」と康司氏に話したところ、即賛成。康司氏もパッチワークを始め、展示にあたり、場所の提供の依頼や、力仕事、高所での作業など、康司氏のサポートもあり、実現。 康司氏は、文化や歴史を大切に、次世代へと継承する姿勢と時代に合わせて活動を新たに始める姿勢を持ち合わせ、地域活動に大きく貢献。	美郷町長
	やまだ こうじ 山田 康司		○地域の各種役職を歴任 粕淵地域連合自治会体育部長として平成22年1月に正月の伝統行事である「とんど焼き」を復活させる。 旭町自治会長として、子ども神輿の世話や、敬老の日にあわせて、子ども会からお年寄りへプレゼントを配布。		
5	しらやま りか 白山 里香	奥出雲町 中村	○しまね田舎ツーリズムの民泊施設を運営 Uターンして10年。奥出雲町の古民家で囲炉裏暮らしをしながら、「田楽荘(だらくそう)」を運営。 農業から人づきあいまで、昔ながらの生きる知恵、田舎暮らし体験を都市住民へ提供。 ○奥出雲オーガニックコットンプロジェクト(住民有志の取り組み) 中心メンバーとして活躍。 有機栽培した綿の特産化を目指している。	豊かで快適なライフスタイルを提唱するロハスデザイン大賞の最終審査となる「ロハスデザイン大賞新宿御苑展」において、綿の種取り体験等を来場者に提供することで田舎暮らしの楽しさや魅力を伝え、ロハスデザイン大賞受賞に貢献。 《ロハスとは》 健康と環境に配慮したライフスタイル(Lifestyles Of Health And Sustainability)の略称。人間と自然が共存するための、持続可能な社会を創造するモノや考え方、行動のこと。	ふるさと島根定住財団地域活動支援課長
	しらやま ひろみつ 白山 洋光				

	氏名	住居地	推薦理由(地域活動・地域への貢献)	推薦理由(その他)	推薦者
6	河野 悦子 こうの えつこ	浜田市 金城町	<p>○「サウンドファイブ夢の音会」 平成24年6月から代表。昭和43年から音楽による地域づくり活動を開始。 多様なステージを企画。</p> <p>【主な活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夢の音村」開村 誰にも気兼ねなく音楽活動が出来る場を自分たちで建設。 ・交流拠点施設「森の公民館」での自然環境を生かした都市住民との交流会。 例) 森の中のマーケット、外国人教師交流会の誘致、地域おこし協力隊研修会場への活用など ・地域資源の情報発信やイベント等の企画力と利用者へのおもてなしにより、集客数が増加。 平成26年度は5000人を越える利用者、984人の宿泊者。 ・都市部と施設連携協力協定の締結 施設間の利用促進や、誘客PR、体験活動などを相互補完。 ・各種おもてなし 悦子氏は宿泊客への食事を提供する加工友の会の中心的メンバー。 地元食材を使ったお弁当や、おもちなどを注文を受けて製造販売。 <p>○農村の魅力に触れる民泊ロードを開始 金城町内の8団体が協力し、農村宿泊体験の基盤の拡充。 合宿や農山村体験交流の受入で活力ある地域づくりの創出。</p>	<p>地域資源の情報発信やイベント等の企画力と、利用者への温かいおもてなしにより、地域内に都市住民を多数呼び込み、それらを周辺の観光施設へ誘導させるといった波及効果が広がっている。</p> <p>「自分で出来ることは自分で」と創意・工夫を凝らし「森の公民館」の維持管理と企画運営に夫婦協力し合い、二人三脚で取組み、地域を盛り上げてきた。</p> <p>今後も、精力的に様々な活動を行う計画があり、夫婦ならではの息のあった活躍が期待される。</p>	浜田市金城支所
	河野 文影 こうの ふみかげ		<p>○石見根付の技法の再現、継承 明治時代以降廃れた石見根付を独学で研究し、現代によみがえらせた第一人者。 ふるさと学習の一環として小学校での体験活動などを実施。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>《根付(ねつけ)》 江戸時代に印籠やたばこ入れなどを、着物の帯から紐でつるして持ち歩く際に用いた留め具。材質は黒檀、象牙など。 ※石見根付は、いのししの牙を代表的な素材として使用した作品。</p> </div> <p>○「石もひと役運動」を提唱 身近な石を使って町おこしを進めようと1995年に実行委員会を組織し、活動開始。 保育所、幼稚園、小学校において恒例の活動となっている。 著名人が江津を訪れた際には石を持参し、制作を依頼するなどの行動力もある。 町内外で「石もひと役」展を開催し、来場者を楽しませている。</p>	<p>俊晞氏は平成19年に「第30回記念日本の象牙彫刻展」に出品した石見根付作品で高円宮賞を受賞。これにより市民の中でも石見根付への興味が高まり、また郷土に誇れる文化芸術として広く認識されるようになった。</p> <p>昭和54年に木寿会(木彫り愛好家グループ)の立ち上げ、5年ごとに彫刻展を開催し、来場者からの注目を集めている。</p>	江津市長
7	田中 邦子 たなか くにこ	江津市 嘉久志町	<p>○石見根付の技法の再現、継承 明治時代以降廃れた石見根付を独学で研究し、現代によみがえらせた第一人者。 ふるさと学習の一環として小学校での体験活動などを実施。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>《根付(ねつけ)》 江戸時代に印籠やたばこ入れなどを、着物の帯から紐でつるして持ち歩く際に用いた留め具。材質は黒檀、象牙など。 ※石見根付は、いのししの牙を代表的な素材として使用した作品。</p> </div> <p>○「石もひと役運動」を提唱 身近な石を使って町おこしを進めようと1995年に実行委員会を組織し、活動開始。 保育所、幼稚園、小学校において恒例の活動となっている。 著名人が江津を訪れた際には石を持参し、制作を依頼するなどの行動力もある。 町内外で「石もひと役」展を開催し、来場者を楽しませている。</p>	<p>俊晞氏は平成19年に「第30回記念日本の象牙彫刻展」に出品した石見根付作品で高円宮賞を受賞。これにより市民の中でも石見根付への興味が高まり、また郷土に誇れる文化芸術として広く認識されるようになった。</p> <p>昭和54年に木寿会(木彫り愛好家グループ)の立ち上げ、5年ごとに彫刻展を開催し、来場者からの注目を集めている。</p>	江津市長
	田中 俊晞 たなか としき		<p>○石見根付の技法の再現、継承 明治時代以降廃れた石見根付を独学で研究し、現代によみがえらせた第一人者。 ふるさと学習の一環として小学校での体験活動などを実施。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;"> <p>《根付(ねつけ)》 江戸時代に印籠やたばこ入れなどを、着物の帯から紐でつるして持ち歩く際に用いた留め具。材質は黒檀、象牙など。 ※石見根付は、いのししの牙を代表的な素材として使用した作品。</p> </div> <p>○「石もひと役運動」を提唱 身近な石を使って町おこしを進めようと1995年に実行委員会を組織し、活動開始。 保育所、幼稚園、小学校において恒例の活動となっている。 著名人が江津を訪れた際には石を持参し、制作を依頼するなどの行動力もある。 町内外で「石もひと役」展を開催し、来場者を楽しませている。</p>	<p>俊晞氏は平成19年に「第30回記念日本の象牙彫刻展」に出品した石見根付作品で高円宮賞を受賞。これにより市民の中でも石見根付への興味が高まり、また郷土に誇れる文化芸術として広く認識されるようになった。</p> <p>昭和54年に木寿会(木彫り愛好家グループ)の立ち上げ、5年ごとに彫刻展を開催し、来場者からの注目を集めている。</p>	江津市長